1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500291		
法人名	医療法人社団 生和会		
事業所名	グループホーム 和み		
所在地	山口県周南市大字湯野4298番地1		
自己評価作成日	令和6年7月31日	評価結果市町受理日	令和6年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和6年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温泉街の静かな山間で、季節の移り変わりを肌で感じられる事のできる環境、立地条件にあります。利用者様と共に生活を送る共同生活者として、一緒に洗濯干しや食器洗いなどの家事支援を行いながら、出来る事は自信を持って行って頂けるよう支援しています。コロナ禍で屋外へ出掛ける事は困難となっておりますが、2か月に一度の和みカフェの再開や季節に応じた行事などを行い、毎日楽しく生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温泉地にある地域の特性を活かして足湯などの外出の支援を行っている。LINE(SNS)を活用し家族とのコミュニケーションを充実させ意見をケアに活かしている。モニタリングの結果について写真を添付し毎月、広報誌と共に送付している。また、運営推進会議の議事録を2か月ごとに送付している。行政と協力し合い介護相談会「和みカフェ」に取り組み地域にも周知している。ハラスメント対策など制度改定の内容を的確につかみ各種マニュアルを整備している。技能実習生の受け入れなど人材確保に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (ぽっかぽか)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関先や各ユニットに掲示し、その人らしさのケアに繋げ職員間で共有し寄り添った生活が送れるよう努めている。	理念を玄関やユニット事務所に掲示し、年度ごとに個人目標を定めて実践につなげている。自治会への加入や利用者の得意なことを活かすケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入会と和みカフェを通じ地域の方と顔なじみの関係を築いている。	自治会に加入し、自主的に周辺の草刈りをしたり、回覧物で夏祭りなどの行事を知り参加している。認知症相談会の「和みカフェ」などの取り組みを回覧し地域に知らせている。中学生の職場体験に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	和みカフェのチラシの作成や配布、地域包括支援センターより相談を受けている。いつでもご連絡いただけるよう発信している。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価を記録し日々の支援の振り返り、問題点を話し合いケアの改善・向上に努めている。	外部評価の自己評価項目について、職員が自己評価したものを管理者が取りまとめている。また、個人別の自己目標に対する自己評価を行い次年度に活かす取り組みを行っている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面での提出であったが、昨年の6月から対面での開催を行い多くのご意見を頂きサービス向上に努めています。	行政、地域包括支援センター、介護相談員、民生委員、派出所と職員で開催している。利用者や職員の様子や各種委員会の報告、ヒヤリハットの報告がされ、参加者から行事や取り組みの評価や助言をもらっている。	

自己	外部	項目（ ぽっかぽか ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員、地域包括支援センター、介護相談員の方々が、運営推進会議のメンバーに入っておられ、直接、運営やサービスについて電話、メール、訪問などで協力関係が築けるよう取り組んでいる。	要介護認定の更新申請の際、市の担当者と話す機会があり、電話等で相談することがある。市と協力し合い認知症相談会「和みカフェ」を開催している。市の開催する研修会や集団指導に参加している。グループホーム協会に加入し研修会等に参加している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を毎月ミーティングで開催し、個々の状態を把握しながら対応を行っている。職員全員がお互いに注意し合える関係を築き取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会はミーティング時に毎月開催している。年に2回動画サイトを使った研修会を虐待防止の研修と合わせて行っている。説明同意書や記録様式など整えている。日中は玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングにて認知症の理解と虐待防止についての研修を行い、個々の状態を把握しながら対応を行っている。職員全員がお互いに注意し合える関係を築き取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて権利擁護についての研修を職員全員で共有し、制度内容をご家族に対してご説明できるよう努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のサービスについて十分なお説明をさせていただき、ご理解ご納得された上で締結、解約を行っている。		

自己	外部	項目 (ぽっかぽか)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や受付体制、第三者委員会、処理手続きの定め等、契約時にご家族に説明している。	意見箱の設置や相談体制の説明、整備をしている。日常的には、面会時やLINE(SNS)を通じて個別の家族の要望に対応している。衣服や過ごし方の要望や衛生用品等の身の回りの必要な物を確認している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング時に運営に関する職員の意見を聞き、意見箱の設置や、直接上司にも連絡が取れるよう連絡先の公表を行っている。また、管理者の運営会議にて現場の意見が言える機会を取っている。	管理者がミーティングを通じて職員の意見を聴取し運営に反映している。ハラスメントなどは直接エリア長に連絡できる体制を整備している。日常的にはユニットリーダーを通じて運営の変更などを行っている。災害用の備品の置場や行事の内容など意見を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、ノー残業デーを設けている。休憩時間にはスタッフ同士で声を掛け合っており、互いに向上心が持てる環境作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度よりオンライン研修や外部研修の受講確保に努めている。	年間の研修計画を策定し毎月内部研修を行っている。外部研修として、初任者研修、実務者研修、認知症実践者研修、介護支援専門員更新研修などに業務として受講し、受講料を事業所が支援している。技能実習生を受け入れ積極的に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への加入やケアマネジャーさんとのグループラインにより、情報交換や、zoomでの勉強会へ参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目 (ぽっかぽか)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い不安や要望の聞き取り調査をし、支援方法について職員間で周知し、安心を確保できる関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談を行い不安や要望の聞き取り調査をし、支援方法についてご家族に説明し、いつでも状況が分かるようライン交換を行い安心できる関係作りに努めている。また、職員間で共有し、安心を確保できる関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを使用しながら、必要な支援を把握し職員一同で優先順位を見極め、対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でさりげなく達成感が持てる支援の提供を行いながら関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、状態報告をご家族様へ伝え、共有している。体調変化時等には随時連絡している。		

自己	外部	項目 (ぽっかぽか)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により窓越し面会であったが、カフェの再開等により馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	コロナ禍であっても窓越し面会やLINE(SNS)を使った面会を実施し馴染みの関係が続くよう支援している。年賀状や手紙などの書くことの支援や読むことの支援を行っている。馴染みの場所としては、温泉や足湯、名所や観光地へのドライブを行っている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションが図れるよう時折間に入りながらそれぞれが出来る事を行っていただき助け合えるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご相談など手伝えることがあればと声をかけさせていただき、対応、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを活用し、得られた情報や日常生活の中の会話を記録に残し希望や意向の検討を行っている。	グループホーム独自のアセスメント様式を活用し、状態や意向、生活歴、趣味嗜好、特技などを把握している。意向や言葉を介護記録(タブレット)を活用し職員同士で共有しケアに活かしている。会話が難しい利用者には、表情や仕草から意向を掴んでいる。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴からだけでなく会話の中からの情報も収集し、入所されてからの生活に活かせるよう努めている。		

自己	外部	項目（ ぽっかぽか ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態をタブレットに入力し、いつもと違ったこと、出来たこと等申し送りやミーティングにて周知を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ライン等を活用しご家族様への要望を聞くことや職員の意見をミーティングで話し合い、現状に即した計画を作成している。	毎月、職員と計画作成担当者がモニタリングを行い、顔写真とともにご家族に送付している。ケアプランは半年ごとの見直しを基本に、居宅療養管理指導書の内容も踏まえてミーティングで確認し作成している。作成したケアプランは家族に郵送し同意を得ている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時々状況により声掛けを工夫し、ミーティング等で情報共有し、周知している。また、ラインの活用もしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、救急の同行やご家族様からのご要望にもあったマイナンバーカードの作成への協力等を行うなど、出来る限り柔軟な対応を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の機会も増え、近隣への散歩や和みカフェの開催、自治会への加入等により、地域住民との交流を図っている。		

自己	外部	項目 (ぽっかぽか)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診が2回/月、定期受診を行い、ドクター・看護師と良好な関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	家族にかかりつけ医を選んでもらっている。協力医療機関からは訪問診療が月に2回あり24時間SNSにて対応できる体制である。訪問看護は月に4回訪問があり、歯科の往診も行っている。皮膚科、整形、眼科は事業所が受診の支援をしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	4回/月の訪問看護の来訪とかかりつけ医の看護師へ連絡を取り、都度連絡を行っている。生活上のアドバイス等を受け連携を図っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な医療機関へ情報提供を行い、スムーズに入院が行え退院に向け医療との連携を図っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け、ご家族・主治医・看護師・スタッフを含めた会議を開催し、継続して必要な支援・対応の話し合い取り組んでいる。	利用開始時に重度化に対する方針の説明と医療サービスの利用について確認している。終末期には家族、主治医、看護師、介護職員で様態の変化と対応について話し合いチームで支援を行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告書・事故報告書をもとに、再発防止に取り組んでいる。救命救急講習も参加し、実践力を身につけられるようにしている。	毎月のミーティングでヒヤリハットや事故報告書をもとに検証と対策を検討し防止策を確認している。研修は年1回開催している。救命救急等の訓練は、法人内のグループホームが合同で消防署から講師を招いて実施している。	

自己	外部	項目 (ぽっかぽか)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練、年二回の消防訓練を職員の少ない夜間想定の実践を行い、安全に避難できる方法について検討している。近隣住民と運営推進会議にて検討しているが、高齢化が進んでいることもあり、困難な箇所もある。同法人の施設へ協力依頼を行っている。	土砂災害警戒地域に立地している。水・食料など備蓄は3日分、垂直避難を想定している。エアベッド、アルミの布団等の用意をしている。法人内の隣接する有料老人ホームやリハビリ病院との連携を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせ、ゆっくりと声を掛けることや、笑顔で対応することの心がけ、排泄や入浴時にはプライバシーに配慮したお声掛けの対応を行っている。	人格や尊厳、接遇などの研修を実施している。羞恥心に配慮した声掛けや他の利用者の視界に配慮したケアを行っている。個人情報の方針の説明と使用についての同意を得ている。個人ファイルは鍵付き書庫にて保管している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての介助をするのではなく、思いや希望を引き出せるよう働きかけている。表情を観察し、思いがくみ取れるよう心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら家事支援などのお声掛けを行っている。無理強いすることない様気を付けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣など、職員の見守りの中、身だしなみに興味がむくようお声掛けし、ご本人の希望に任せるようにしている。ご利用者さまの希望に応じて化粧やマニキュアを塗るなどおしゃれを楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目 (ぽっかぽか)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食とも盛り付けや食材を切っていただくなど一緒にいき、一人ひとりの持てる力に応じて配慮し楽しみが持て、一連の流れと一緒に出来るよう支援している。	ご飯とみそ汁を調理し、主菜は湯煎などで対応している。朝食は希望によりパン食を取り入れたり、行事食として利用者の希望するメニューを取り入れている。毎食、下ごしらえや盛り付け、準備など一緒に行っている。家族と外食を楽しむ利用者もいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量・形態調整を行っている。こまめに水分補給の時間を設け、脱水予防に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に口腔栄養スクリーニングを実施し、何かあればご家族様へ報告し、歯科往診へ繋げている。また、研修会へも参加している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録の活用を行い、個々のパターンの把握を行っている。個々にあった声のかけ方により誘導しトイレでの排泄、自立に向けた支援を行っている。	水分量、食事量、排便・排尿、血圧、体温を記録する集計表にて排泄のパターンを把握し声掛け自立を促している。在宅でオムツであった利用者が立位を取れるようになり下肢筋力もつき、リハビリパンツに移行した例もある。トイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給・腹部マッサージ、体操等を行い、個々の排泄のタイミングを把握し誘導、便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目（ぽっかぽか）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	清拭・シャワー浴・足浴の対応、個々の状態に合わせて入浴していただいている。温度調節にも配慮し、拒否のある方へは無理強いせず時間をおいて対応するなどの工夫を行っている。	午前浴を中心に週に2～3回入浴をしている。状態に合わせて、足浴・手浴、シャワー浴など行っており、回数の制限は設けていない。ゆず湯を楽しんだりしている。シャンプーや保湿剤など個人の物を持ち込むことができる。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の表情や、状態観察を行い、状況に応じて休憩時間を設けることや、個々に合った活動を日中行うことにより、夜間十分な睡眠がとれるよう支援している。また、居室内の温度や明るさへも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された情報をシステムに打ち込み、理解を得ている。服薬時には個々に合った提供を行い、飲み込み終えるまでの確認を行っている。処方薬の変更がある際には、情報収集・共有を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のニーズに沿った得意不得意の把握を行い、活躍できる場面作りを心掛けている。	花壇で花を育てたり、手芸やズボンの裾上げ、洗濯物干しや洗濯物の取り込みや畳むなどできることや得意なことを利用者が行っている。食事の準備や後片付けなど役割分担し生活している。チョコレートが好きな利用者には、一緒に隣接病院の売店まで買いに行く支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩、日光浴など個々の希望を確認し支援している。ご家族様からのご希望があった際には外出や外食も楽しまれている。	日常的には、散歩と施設前のベンチでの日光浴、洗濯物干しが外出の機会である。温泉地であるため、足湯に出かけたり、ドライブで名所や観光地に行くことがある。法事や誕生日、孫の結婚式に家族で料亭に行ったり外泊することがある。	

自己	外部	項目 (ぽっかぽか)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方にはご家族と相談、確認のもと、必要最低限のお金を所持されているかたもいらっしゃる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いのハガキを出している。携帯電話を使用され、自ら電話されることもあった。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節に応じた壁画を一緒に作成し、張り出すことで季節を感じてもらえるようにしている。	共有スペースは十分な広さがあり、明るく快適に過ごせる。要所にソファが置いてあり一人で過ごせる空間となっている。壁面に季節を感じる壁画が飾られている。畳の休憩室もあり、落ち着いて過ごせる空間となっている。トイレ、浴室、廊下に手すりを設置しており自立して移動できるよう整備している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・ホール・共有スペースには椅子・ソファを設置しており、自由に使用していただける空間づくりを行っている。各個室もあり、お一人の時間を過ごしたい方はその時間を持つこともできる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様が持ち込まれた写真や手紙はファイリングすることや、居室へ飾り、居心地よく過ごせるようにしている。	各居室に洗面台があり、整容等が行える。馴染みの物は、本棚やテレビ、位牌、漫画、書籍などの持ち込みがある。写真の持ち込みも多く、職員と一緒に壁に整理して貼っている。状態の変化や希望によりベッドの位置を工夫している。	

自己	外部	項目（ぽっかぽか）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下には手すりの設置、浴室トイレには場所表示をして、利用者さまが理解しやすいようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目 (キラキラ)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関先や各ユニットに掲示し、その人らしさにケアに繋げ職員間で共有し寄り添った生活が送れるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会と和みカフェを通じ地域の方と顔なじみの関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	和みカフェのチラシの作成や配布、地域包括より相談を受けている。いつでもご連絡いただけるよう発信している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価を記録し日々の支援の振り返り、問題点を話し合いケアの改善・向上に努めている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面での提出であったが、昨年の6月から対面での開催を行い多くのご意見を頂きサービス向上に努めています。		

自己	外部	項目（キラキラ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員、地域包括支援センター、介護相談員の方々が、運営推進会議のメンバーに入っておられ、直接、運営やサービスについて電話、メール、訪問などで協力関係が築けるよう取り組んでいる。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を毎月ミーティングで開催し、個々の状態を把握しながら対応を行っている。職員全員がお互いに注意し合える関係を築き取り組んでいる。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングにて認知症の理解と虐待防止についての研修を行い、個々の状態を把握しながら対応を行っている。職員全員がお互いに注意し合える関係を築き取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて権利擁護についての研修を職員全員で共有し、制度内容をご家族に対してご説明できるよう努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のサービスについて十分なお説明をさせていただき、ご理解ご納得された上で締結、解約を行っている。		

自己	外部	項目（キラキラ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や受付体制、第三者委員会、処理手続きの定め等、契約時にご家族に説明している。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング時に運営に関する職員の意見を聞き、意見箱の設置や、直接上司にも連絡が取れるよう連絡先の公表を行っている。また、管理者の運営会議にて現場の意見が言える機会を取っている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、ノー残業デーを設けている。休憩時間にはスタッフ同士で声を掛け合っており、互いに向上心が持てる環境作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度よりオンライン研修や外部研修の受講確保に努めている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への加入やケアマネージャーさんとのグループラインにより、情報交換や、zoomでの勉強会へ参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目（キラキラ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い不安や要望の聞き取り調査をし、支援方法について職員間で周知し、安心を確保できる関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談を行い不安や要望の聞き取り調査をし、支援方法についてご家族に説明し、いつでも状況が分かるようライン交換を行い安心できる関係作りに努めている。また、職員間で共有し、安心を確保できる関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを使用しながら、必要な支援を把握し職員一同で優先順位を見極め、対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でさりげなく達成感が持てる支援の提供を行いながら関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、状態報告をご家族様へ伝え、共有している。体調変化時等には随時連絡している。		

自己	外部	項目（キラキラ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により窓越し面会であったが、カフェの再開等により馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションが図れるよう時折間に入りながらそれぞれが出来る事を行っていただき助け合えるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご相談など手伝えることがあればと声をかけさせていただき、対応、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを活用し、得られた情報や日常生活の中の会話を記録に残し希望や意向の検討を行っている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴からだけでなく会話の中からの情報も収集し、入所されてからの生活に活かせるよう努めている。		

自己	外部	項目（キラキラ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態をタブレットに入力し、いつもと違ったこと、出来たこと等申し送りやミーティングにて周知を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ライン等を活用しご家族様への要望を聞くことや職員の意見をミーティングで話し合い、現状に即した計画を作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時々状況により声掛けを工夫し、ミーティング等で情報共有し、周知している。また、ラインの活用もしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、救急の同行やご家族様からのご要望にもあったマイナンバーカードの作成への協力等を行うなど、出来る限り柔軟な対応を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の機会も増え、近隣への散歩や和みカフェの開催、自治会への加入等により、地域住民との交流を図っている。		

自己	外部	項目（キラキラ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診が2回/月、定期受診を行い、ドクター・看護師と良好な関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援を行っている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	4回/月の訪問看護の来訪とかかりつけ医の看護師へ連絡を取り、都度連絡を行っている。生活上のアドバイス等を受け連携を図っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な医療機関へ情報提供を行い、スムーズに入院が行え退院に向け医療との連携を図っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け、ご家族・主治医・看護師・スタッフを含めた会議を開催し、継続して必要な支援・対応の話し合い取り組んでいる。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告書・事故報告書をもとに、再発防止に取り組んでいる。救命救急講習も参加し、実践力を身に付けられるようにしている。		

自己	外部	項目（キラキラ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練、年二回の消防訓練を職員の少ない夜間想定の実践を行い、安全に非難できる方法について検討している。近隣住民と運営推進会議にて検討しているが、高齢化が進んでいることもあり、困難な箇所もある。同法人の施設へ協力依頼を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせ、ゆっくりと声を掛けることや、笑顔で対応することの心がけ、排泄や入浴時にはプライバシーに配慮したお声掛けの対応を行っている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての介助をするのではなく、思いや希望を引き出せるよう働きかけている。表情を観察し、思いがくみ取れるよう心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら家事支援などのお声掛けを行っている。無理強いすることない様子を付けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣など、職員の見守りの中、身だしなみに興味がむくようお声掛けし、ご本人の希望に任せるようにしている。ご利用者さまの希望に応じて化粧やマニキュアを塗るなどおしゃれを楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目（キラキラ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食とも盛り付けや食材を切っていただくなど一緒に行い、一人ひとりの持てる力に応じて配慮し楽しみが持て、一連の流れを一緒に出来るよう支援している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量・形態調整を行っている。こまめに水分補給の時間を設け、脱水予防に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に口腔栄養スクリーニングを実施し、何かあればご家族様へ報告し、歯科往診へ繋げている。また、研修会へも参加した。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録の活用を行い、個々のパターンの把握を行っている。個々にあった声のかけ方により誘導しトイレでの排泄、自立に向けた支援を行っている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給・腹部マッサージ、体操等を行い、個々の排泄のタイミングを把握し誘導、便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目（キラキラ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	清拭・シャワー浴・足浴の対応、個々の状態に合わせて入浴していただいている。温度調節にも配慮し、拒否のある方へは無理強いせず時間をおいて対応するなどの工夫を行っている。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の表情や、状態観察を行い、状況に応じて休憩時間を設けることや、個々に合った活動を日中行うことにより、夜間十分な睡眠がとれるよう支援している。また、居室内の温度や明るさへも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された情報をシステムに打ち込み、理解を得ている。服薬時には個々に合った提供を行い、飲み込み終えるまでの確認を行っている。処方薬変更ある際には、情報収集・共有を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のニーズに沿った得意不得意の把握を行い、活躍できる場面作りを心掛けている。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩、日光浴など個々の希望を確認し支援している。ご家族様からのご希望があった際には外出や外食も楽しませている。		

自己	外部	項目（キラキラ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方にはご家族と相談、確認のもと、必要最低限のおかねをしょじされているかたもいらっしゃる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いのハガキを出している。携帯電話を使用され、自ら電話されることもあった。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節に応じた壁画を一緒に作成し、張り出すことで季節を感じてもらえるようにしている。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・ホール・共有スペースには椅子・ソファを設置しており、自由に使用していただける空間づくりを行っている。各個室もあり、お一人の時間を過ごしたい方はその時間を持つこともできる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様が持ち込まれた写真や手紙はファイリングすることや、居室へ飾り、居心地よく過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目（キラキラ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下には手すりの設置、浴室トイレには場所表示をして、利用者さまが理解しやすいようにしている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホーム和み

作成日

令和6年10月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災・自然災害について、同医療法人が隣接しているが、応急手当等実践力に不安がある。	同医療法人や近隣住民との連携や状況判断が行え、訓練により実践力が身につく。	・近隣住民へ運営推進会議やカフェの参加を呼びかけ、地域の情報を得る場所にしていく。内部研修や外部研修を活かし実践力を身に付ける。	1年
2	13	運営推進会議を活かした取り組み、地域の方の参加が少なく、認知症の理解をしていただくためにも参加を呼び掛けていきたい。	いろいろな方に参加していただき、日常生活に対する意見や地域の情報を知る場所にしていきたい。	散歩や、地域の行事に参加や道の駅などのパンフレットを設置して歩き、和みを知ってもらえるようきっかけ作りを行う。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。